

令和 8 年度 第 2 回輪島市総合計画審議会 議事録

日時：令和 8 年 9 月 30 日（水）

13 時 30 分～14 時 20 分

場所：輪島市役所本館 4 階 第 1 会議室

【輪島市総合計画審議会委員】

- ・輪島商工会議所 会頭 久岡 政治 委員
- ・輪島市区長会長会 会長 久保 敬夫 委員
- ・門前町商工会 会長 沢田 隆 委員（欠席）
- ・一般社団法人輪島市観光協会 会長 新甫 実 委員（欠席）
- ・能登森林組合 代表理事組合長 亀井 順一郎 委員
- ・能登農業協同組合 代表理事組合長 藤田 繁信 委員（欠席）
- ・石川県漁業協同組合輪島支所 支所運営委員長 中村 勝成 委員
- ・輪島漆器商工業協同組合 理事長 日南 尚之 委員（欠席）
- ・社会福祉法人輪島市社会福祉協議会 事務局長 泉原 隆司 委員
- ・輪島市各種女性団体連絡会 会長 山田 祥子 委員
- ・連合石川能登地域協議会 事務局長 竹本 徹也 委員
- ・一般社団法人輪島青年会議所 理事長 久岡 政之 委員
- ・輪島公共職業安定所 所長 和多田 圭祐 委員
- ・輪島市銀行会 幹事銀行 北陸銀行輪島支店 支店長 西脇 勝 委員
- ・公募委員 向面 大樹 委員

【事務局】

- ・輪島市企画財政部：上野部長
- ・輪島市企画財政部復興推進課：平田課長、一本松課長補佐、山下主査
- ・株式会社東洋設計：北村、中澤

【令和 8 年度 第 2 回輪島市総合計画審議会 会議次第】

- 1 開会
- 2 報告
 - （1）市民アンケート調査について
 - （2）策定スケジュールについて
- 3 議題
 - （1）中高生アンケート調査について
 - （2）施策体系（案）について
- 4 閉会

【質疑・意見交換】

事務局 一同	「報告（１）市民アンケート調査について及び（２）策定スケジュールについて」 （【資料１、資料２】の説明） 質疑・意見等なし
事務局	「議題（１）中高生アンケート調査について及び（２）施策体系（案）について」 （【資料３、資料４】の説明）
西脇委員	■中高生アンケート調査の実施方法・対象について アンケートの回収方法について、配布は学校に依頼するとのことだが、回収についてはどのように行うのか。個人で郵送する方法では、回収率が低くなることが懸念される。
事務局	学校の先生にアンケート用紙を渡し、学校において回収した上で、回答票を市役所に提出していただく形を想定している。 また、学校においても生徒はタブレットを使用しているため、Webでの回答を促すことについて学校側と打合せをしており、さらなる回収率の向上が図られるものと考えている。
久岡(政之)委員	アンケート票の問２について、航空高校の扱いはどのようなになるのか。現状の回答票の選択肢には含まれていない。
事務局	航空高校の生徒の皆様には案内していない。市外から通学している生徒が多いことなどから、航空高校は対象外としている。復興まちづくり計画策定時のアンケートにおいても、航空高校の生徒は対象としていない。
亀井委員	■中高生アンケート調査の設問・分析方法について 設問１において、選択肢が「男性・女性・その他」となっているが、「その他」という表現が学生にとってどのように受け止められるか懸念する。「答えたくない」という選択肢の方が良いのではないか。

事務局	選択肢について、「その他」ではなく「答えたくない」という選択肢とすることも含めて、適切な選択肢を事務局で検討する。
竹本委員	分析方法について、調査実施方針（案）においては「学年別・地域別のクロス集計」となっているが、男女別の分析も追加した方が良いと思われる。
事務局	富山県では、一度県外に出た女性は地元に戻ってくる割合が低いというデータもあるため、性別によるクロス集計について検討する。
山田委員	■若い世代の意見の把握と次期総合計画への反映について 今回のアンケートは、若い世代に将来的に輪島に戻ってきてほしいという願いを込めたものと認識している。若い世代の意見は重要であるため、なるべく回収率を高めていただきたい。また、自由回答欄を重視し、若い世代から自由な意見を集めることも重要ではないか。
事務局	最新の国勢調査においても、輪島市は全国３位の減少率であり、人口減少が著しい状況にある。一度離れた若い世代に輪島に戻ってきてほしいという思いで復興まちづくり計画を策定していることから、今回のアンケートで寄せられた若い世代の意見についても、次期総合計画に反映していきたいと考えている。
久岡(政治)会長	■施策体系（案）の構成・変更について 現行計画に位置付けられている SDGs 施策と Society5.0 は、次期総合計画においてはどのような位置づけとなるのか。
事務局	SDGs 施策と Society5.0 については、前回の総合計画策定時に、当時の国の総合戦略である「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に掲げられていたものである。現在は「地域未来戦略」へ移行されており、これに伴い、次期総合計画における内容についても変更している。
久岡(政治)会長	教育環境は厳しい状況にあるが、市内の６小学校の統合などについては、施策体系のどの項目に該当するのか。
事務局	「Ⅳ－１ 学校教育の充実」の中に盛り込むこととなる。

久岡(政治)会長	親として子どもの教育環境に不安を持って市外に転出される方もいると聞いているので、この項目については、特に力を入れて取り組む必要があると考えている。
和多田委員	「Ⅱ－３ 多様な就労機会の創出」において、「多様なニーズに対応した雇用対策」を「雇用対策の充実」に変えるということか、確認したい。
事務局	「多様なニーズに対応した雇用対策」については、復興まちづくり計画の項目として挙げられている。復興まちづくり計画に掲げられた施策を次期総合計画に加えた場合の項目となる。復興まちづくり計画の内容を次期総合計画へ追加するという認識で問題ない。
向面委員	計画全体を見て、現行の項目から「Ⅵ みんなでつなぐ復興まちづくり」が追加されることは理解できたが、小項目や詳細項目において、前回から変更した項目が分かると、今後議論しやすい。
事務局	現在、皆様にお示ししているのは主な施策項目である。現状の資料では変更点が分かる形にはなっていないが、今後内容を精査し、追加した項目などについては明示できるよう工夫したい。
向面委員	現状の施策体系（案）の大項目などは決定事項ではなく、今後、審議会の中で追加や修正がなされるものか。
事務局	そのような認識で問題ない。
向面委員	「Ⅵ みんなでつなぐ復興まちづくり」の項目が追加されているが、今後必要な項目があれば追加していくことも可能か。
事務局	今後、追加すべき項目があれば、追加することも可能である。
中村委員	■ 中高生アンケートと市の将来の方向性について 個人的な意見だが、アンケートを実施することも良いが、市として目指すべき方向性が必要ではないか。若い方にとっては、そういった市の方向性が見えないと、アンケートに答えにくいのではないか。市としての目標に対する意見を聞くものであれば答えられるかもしれないが、今の形のアンケートは、中高生にとって理解しにくいのではないか。

事務局	市民の皆様のご意見を伺いながら作っていくのが、計画策定のプロセスとして一般的と考えている。まずは市民の皆様の声を聴いた上で、基本理念や基本構想などを検討していくというプロセスとしていきたい。
中村委員	漁師の立場からすると、若い世代の多くが輪島を離れてしまっている。若い世代が輪島に残るためには、市として今後どのようなまちを目指していくのか、ある程度の方向性を示すことが必要ではないか。例えば、風力発電についても、具体的な事業の時期や見通しが示されれば、それが若い世代にとって輪島に残る理由の一つになるのではないかな。
事務局	市として目指す方向性については、執行部において検討していく事項であると考えている。いただいたご意見については、今後の検討に活かしていきたい。
久保委員	■復旧・復興から新たなまちづくりへの転換について 災害後の復旧・復興については、これまで応急的な復旧が続いてきたが、いつまでも応急的な対応に留まっていると、震災前よりも良い地域にしていく視点が持てなくなるのではないかな。 例えば、中小河川では氾濫によって田畑に影響が出ているほか、山についても、かつては財産として捉えられていたものが、現在では管理が難しく、負担となっている面もある。港湾においても応急的な対応が進められているが、今後は抜本的な対策を考えていく必要があるのではないかな。 また、震災前には新図書館についても設計段階まで整備計画が進んでいたが、震災によってその計画が止まっている。スポーツについても、地域の人だけでなく、市外から人を呼び込むことのできる重要な分野であるが、現在はスポーツをする場所も間に合わせのような状況になっている。サン・アリーナについても、いつになったら利用できるのかという市民の思いがある。 教育にも関わることだが、以前は地域の川の清掃や山の整備、学校林の整備など、地域住民やボランティアが地域の環境を守る活動も行っていた。現在は、そうした活動の機会も少なくなっている。多重災害によって地域の環境も大きな影響を受けているが、中小河川については、これまでも地域で清掃などを行ってきた。今後も、行政だけですべてを担うのではなく、ボランティア活動など、地域でできることから少しずつ整備を進めていくことも必要ではないかな。

事務局	市としては、これから本格的に復興が始まる段階に入っていると考えている。学校の統合やサン・アリーナの復旧など、これから公共施設の復旧が進んでいくことになる。 図書館についても、震災前に策定していた整備計画からは、大きく方向性が変わることになる。駅前再開発を含めて調査のための予算も確保しているが、今後の輪島市のまちづくりは、震災前に計画していたものから大きく変わっていくものと考えている。これは西部地区の門前、東部地区の町野、南志見を含め、市全体に関わるものである。 次期総合計画の基本計画は、前期・後期それぞれ4年間の計8年間で計画期間としている。その中で、復旧が必要なものについては着実に進めるとともに、新たに整備が必要なものについても取り組んでいきたい。 今後、各課へのヒアリングなどを行い、必要な施策や取組を整理した上で、次期総合計画に反映していきたいと考えているので、引き続きご協力いただきたい。
久保委員	■地域での取組、漆芸美術館等の公共施設について 行政がさまざまな形で動いてくださっていることは重々理解している。一方で、全てを行政だけで担うのではなく、昔から行われてきた河川の清掃などのボランティア活動を活かし、田畑や山林にも目を向けたりするなど、地域でできることを支えていくような施策も必要ではないか。 また、応急的な対応をそのまま進めていくだけでは、漆芸美術館と同じようなことになってしまうのではないかと感じている。漆芸美術館は、設計者が施設全体をどのように見せるかという考え方のもとで設計されており、当初は滝があり、水が流れるなど、周辺の環境も含めて一体的に整備されていた。当時、小泉総理が来訪した際にも水が流れていたと記憶している。 しかし、その後、さまざまな事情によって水が流れなくなり、現在では滝の周辺にも草が茂っている。当初の設計思想にあった全体としての美的感覚が、時間の経過とともに損なわれているように感じる。 現在は、業者の資材不足などにより改修が難しいと聞いているが、漆芸美術館は日本でここにしかない施設である。そのため、市だけで対応するのではなく、県や国とも連携しながら、施設本体だけでなく周辺環境も含めて改修・整備していくことが必要ではないか。

事務局	現在、入札不調が多く、輪島小学校の建設工事についても不調が続いている。漆芸美術館の改修についても、数回にわたり入札不調となっている。これについては、議会に諮った上で ECI 方式を採用し、大手事業者による対応が進んでおり、だいぶ決まってきている。 下水道、水道設備、建築など、今後も必要となる改修等については、順次発注を進めていく。早ければ来月頃から始める予定である。
向面委員	■次期総合計画の将来像として掲げるフレーズについて 現行計画では、将来像として「“あい”の風がはぐくむ 快適・活気・夢のまち」というフレーズが掲げられていたが、次期総合計画ではどのようにするのか。今回も、これまでのような斬新で印象に残るフレーズを期待したい。 総合計画は、市民の皆様も一緒に目指していくものになると思うので、難しい表現ではなく、「輪島市はここを目指していく」という方向性が分かり、市民みんなの活力につながるようなフレーズがあると良いと思う。
事務局	現在検討中であるため、今後、審議会などで皆様からご意見を伺いながら検討していきたい。

【閉会】（次回会議について）

- ・ 10 月 28 日 13 時 30 分から、輪島市役所新館 2 階中会議室で開催する。
- ・ 各委員には、次回の会議までに資料の事前確認等へのご協力をお願いする。

以上